

声明

東北電力女川原発 2 号機の再稼働に強く抗議し、 同原発の停止を求める

東北電力は 10 月 29 日に、2011 年の東日本大震災で被災して以来運転を停止していた女川原発 2 号機を再稼働させた。女川原発 2 号機は、炉心融解事故を起こした東京電力福島第一原発 1～3 号機と同じ沸騰水型の原発である。東日本大震災の被災地での再稼働も、沸騰水型原発の再稼働も、福島第一原発事故以降初めてのことである。

女川原発は、牡鹿半島の中ほどに位置する原発で、地震や津波などが同時に起きて道路が寸断すれば、事故時の住民避難は困難を極めることは明らかである。また地震などで家屋が損壊すれば、屋内退避も不可能である。事故が起これば避難できないと住民から不安の声があがるなか、再稼働は強行された。

原発を運転させれば、使用済み核燃料がでるが、その行先は決まっていない。使用済み核燃料の再処理工場は 27 回目となる完成時期の延期をすでに発表しており、核燃料サイクルの破綻は明らかである。この状態で原発を再稼働させるのは、核のゴミという危険な負債を将来に残すものであり、その中で再稼働を強行することは無責任そのものである。

福島第一原発事故から 13 年が経過した今も被害は続いている。いまだ多くの人びとが故郷へ戻れず、被害者への補償も十分に行われていない。この被害から目を背け、事故の教訓を忘却し原発回帰することは許されない。また、原発を推進することは、気候危機打開にとって急務となっている再生可能エネルギーの普及・拡大の大きな妨げにもなる。

私たち原発をなくす全国連絡会は、東北電力女川原発 2 号機の再稼働に強く抗議し、同原発の停止を求めるとともに、すべての原発の廃炉と再生可能エネルギーへの転換を求めて闘い続ける決意である。

2024 年 10 月 30 日

原発をなくす全国連絡会